

◆◆◆ 平成21年1月後半から2月中旬にかけて、世界の各地で少雨等が発生、東日本の今冬は記録的な暖冬

- ・アルゼンチン北東部の少雨（気象庁：1月29日発表）
アルゼンチン北東部では、2008年12月の月降水量が平年を大きく下回り、各地で異常少雨となり、干ばつによる農作物への大きな被害が伝えられています。
2008年12月、中部～東部太平洋赤道域では海面水温が下がるラニーニャ現象発生時の特徴が見られ、今回の異常少雨に影響していた可能性があると考えられています。
- ・オーストラリア南東部の熱波と森林火災（気象庁：2月9日発表）
オーストラリア南東部では、2009年1月末から2月初めに異常高温、少雨傾向が続き、森林火災が発生しました。
オーストラリア南東部のメルボルンでは1月28日～30日に日最高気温が43℃以上の日が続き、7日には日最高気温が46.4℃に達し、メルボルンでの100年以上の観測史上の記録になりました。また、長期間にわたっての少雨が続き、1月の月降水量が1mm（平年値46.1mm）でした。
1月末から2月初めに、インドネシアから日付変更線付近にかけて熱帯の対流活動が平年より活発でニュージーランド付近で高気圧が平年より強く、オーストラリア南東部では低緯度側からの暖流が入ったと見られています。
- ・中国東部の少雨（気象庁：2月12日発表）
中国東部では、2008年10月～2009年1月の4ヶ月降水量が平年の3割前後となる少雨となり、干ばつによる被害が伝えられています。中国・河南省のチェンチョウ（鄭州）では、2008年8月から少雨傾向が続いていると報告されています。特に10～12月の3か月降水量は29mm（平年値75.7mm）で、30年に一度かそれ以上の異常少雨でした。この時期、中国東部では平年より北西の流れが強く、南からの暖かく湿った気流が入りにくく少雨となったと見られています。
- ・北日本と東日本では顕著な暖冬
2月22日現在今冬の日本の平均気温は、北日本と東日本において、1946／1947年の気象庁の冬についての統計開始以来、それぞれ第3位と第2位（タイ）の高い記録となっており、日本海側の降雪量もかなり少なくなっています。今回のようにラニーニャ（昨年後半から発生）時における日本の暖冬は例が少なく、統計上、過去のラニーニャ時の冬の1～2割程度です。